

1 . 調 査 報 告 概 要 表

作成日 平成 2 1 年 1 0 月 7 日

【認知症対応型共同生活介護用】

【評価実施概要】

事業所番号	2 7 7 4 9 0 1 1 6 5
法人名	社会福祉法人 華芯会
事業所名	ジェントレス宮
所在地	富田林市宮町 1 丁目 3 番 5 号 (電 話) 0 7 2 1 - 2 6 - 3 5 3 1

評価機関名	社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会
所在地	大阪市中央区中寺 1 丁目 1 番 5 4 号 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成 2 1 年 9 月 1 0 日

【情報提供票より】(平成 2 1 年 8 月 2 4 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 1 6 年 1 1 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	1 3 人	常勤 6 人, 非常勤 7 人, 常勤換算	1 0 . 0 人

(2) 建物概要

建物構造	木 造り		
	1 階建ての	1 階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	5 5 , 0 0 0 円	その他の経費 (月額)	4 0 , 0 0 0 円
敷 金	有 (円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (2 0 0 , 0 0 0 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	3 0 0 円	昼食 4 5 0 円
	夕食	4 5 0 円	おやつ 1 0 0 円
	または 1 日当たり 1 , 3 0 0 円		

(4) 利用者の概要 (平成 2 1 年 8 月 2 4 日現在)

利用者人数	7 名	男性 2 名	女性 5 名
要介護 1	0 名	要介護 2	1 名
要介護 3	3 名	要介護 4	2 名
要介護 5	1 名	要支援 2	0 名
年齢	平均 8 7 . 7 歳	最低 7 8 歳	最高 9 5 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 岡本内科クリニック、山本歯科医院
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地域で保育園の運営に携わる社会福祉法人が、家庭的な「第二の住まい」として 1 ユニット 9 名のホームを開設しました。地域の要請もあり来年は新ユニット設
立が予定されています。法人の理念として「奉仕の精神と感謝の気持ち」「素直
さと謙虚さ」が謳われ、日々のケアの理念として「自分が利用者だったら」を掲
げ職員は支援しています。理念は職員のよりどころとなり、常に利用者の自己選
択の場を作る、プライバシーを守るなど意識されてケアに活かされています。民
家や田園の中にある平屋建てのホームは、広々とした敷地内に畑があり、農作物
や花が植えられ、ゆとりのある環境です。庭で食事やお茶を楽しむこともありま
す。ホーム内は、明るく風通しも良く、居室より四季折々の景色を楽しむことが
できます。日中玄関は開錠しており、自由に出入りできる環境を提供しています。
また、転倒予防や自立した生活を支援するために、午前中 1 時間、音楽にあわせ
たタオル体操、鳴子体操、テーブルを利用した足腰運動などに取り組んでいます。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況 (関連科目：外部 4) 前回、災害対策についてホーム独自の消防・防災訓練が実施されていません でした。救急の日を防災訓練の日と定めるなど、防災・避難訓練を年 2 回以 上実施し、改善しています。
	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目：外部 4) 管理者は自己評価の意義を理解しており、職員全員が自己評価を行い今後の 更なるケアの向上のために活かしています。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目：外部 4, 5, 6) 2 ヶ月に 1 回の運営推進会議は定着し、ホームからの報告や家族の要望、希 望を聞くことで関係が構築してきました。ホームの課題を市に周知してもら う場、家族や利用者により良い生活の場の提供に向けて検討する機会となっ ています。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目：外部 7, 8) 意見箱を設置しています。家族会があり行事への参加などの場で、意見や苦 情を聞く機会となっています。職員は、日ごろより話しやすい雰囲気作りに 取り組んでいます。
重点項目④	日常生活における地域との連携 (関連項目：外部 3) 法人保育園とは日常的な交流を行っています。自治会に加入し、地域のお祭 りや行事、小学校の運動会などに利用者と参加しています。地域のサークル に参加している利用者もいます。利用者への負担を配慮し、研修生や介護相 談員の受け入れを行っています。

2. 調 査 報 告 書

(☐ 部分は重点項目です)

外 部	自 己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事 業所独自の理念をつくりあげている	住み慣れた地域で安心して自分らしく暮すこ とを目指し、法人理念として「奉仕の精神と 感謝の気持ち」「素直さと謙虚さ」などが謳わ れています。ホーム独自の理念として「自分 が利用者だったら」を掲げ、常に利用者がど う対応してほしいかを考え、取り組みをして います。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念 の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は、出勤時に理念を唱和しています。日々 の生活支援の場面で悩んだときに「自分が利 用者であればどのようなケアを受けたいの か」を常に考え、理念に立ち戻りケアを提供 しています。「自分だったら」と体験学習も行 い、介護にも言動にも活かしています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員 として、自治会、老人会、行事等、地 域活動に参加し、地元の人々と交流す ることに務めている	地域行事や保育園、小学校の運動会へ利用者 とともに参加しています。地域の清掃活動に 身体的に困難になってきた利用者にかわり、 職員が参加することで、地域の役割を担っ ています。また、自治会にも加入し地域のサー クルに利用者が参加しています。		

外 部	自 己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は、評価の意義を理解し、運営推進会議や職員会議で全職員に周知しています。自己評価については、全職員で話し合い項目の検討を行っています。外部評価結果は職員で話し合いを行い、質向上に取り組んでいます。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は規程を定め、2ヶ月に1回開催し記録に残しています。また、外部評価の取り組みについても報告しています。会議には、家族の代表や利用者、地域包括支援センター、社会福祉協議会の職員の参加により開催されています。ホームの活動報告や家族の声を聞く機会になり、サービスの向上に活かしています。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会づくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	自己評価や外部評価の結果報告、事故発生時には迅速に届けを行うなど日頃から市と連携を図っています。介護相談員の訪問もあり、市と共にサービスの質向上に取り組んでいます。市へホーム便り「じえんとれす」も届けられています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便り「じえんとれす」を毎月発行し、利用者の日々の暮らしぶりや行事の様子、職員の異動等知らせています。金銭管理は行わず、日用品や衣類の購入については家族にお願いをしています。家族が困難な場合は立替を行い、個別の出納帳に記録し購入時の領収書とともに請求書を発送しています。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時に家族へ利用者の様子を伝えるとともに、要望や意見を聞くようにしています。家族会があり、家族同士の交流が図れるように運営を行っています。家族会の会計管理は、毎年収支決算を行い、家族へ報告しています。会費は敬老の日に家族からのプレゼントで使われることもあり、利用者に家族との繋がりを表すものとして意図的な演出をしています。苦情相談受付箱も設置しています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	来年のユニット増設に向けて、新しい職員が入職していますが、少しずつ利用者や家族と馴染みの関係が構築されています。職員入職時には、お便りで家族にも紹介をしています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に年2回以上の参加を含め、年間6回以上の研修を行っています。研修は記録に残し、勉強会で伝達講習が行われ、資料も保管しています。事業所外で開催される研修にはなるべく多くの職員が受講できるようにしています。今後は研修計画上で位置づけ、実施されることが望まれます。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大阪認知症高齢者グループホーム協議会に加入すると共に、近隣の他市のグループホームと交流を行っています。お互いのホームで職員が交換研修を行うなど、質の向上を目指しています。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者や家族の見学や体験入居、必要に応じて家庭訪問も行っています。ケアマネジャーの紹介で入居される方は、事前にケアマネジャーにも見学をしてもらい、その後、家族と本人が見学し、2泊3日の体験入居をして、家族や利用者が納得して入居できるようにしています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学び支えあう関係を築いている	職員は日常生活の中で調理や食事、洗濯たたみなどできることを利用者と共に行い、日々の生活を楽しみ喜び合う関係を大切にしています。調理方法や味付けは、利用者の得意とするところとします。職員は、隠し味に何を入れると良いかなど先輩の知恵を拝借しています。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者や家族の希望は書面で記録されています。意向を明確にできない利用者にも「2つから1つを選ぶ」など、できるだけ選択できる場面を意図的に作っています。また、ケアの場面で、利用者の表情や行動から思いを知ろうとする様子が見られます。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の意見を基に、介護計画書を作成しています。介護計画書は、家族等への説明を行い同意の署名をもらっています。毎月利用者一人ひとりのカンファレンスを職員と実施し、毎月のモニタリングに活かしています。介護計画の見直しは、3ヶ月に1回行っています。意思表示が困難な利用者の満足度等、常に利用者の表情や言動を意識しながら評価を行っています。日々の記録は、介護計画の評価とともに、利用者の変化や日常の様子が記載されています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、3ヶ月ごとの定期的な見直しと状態の変化や要望に応じて見直しています。アセスメント表、毎月のモニタリング記録、やカンファレンスも実施し記録しています。		

外 部	自 己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援（事業所及び法人関連事業の多機能性の活用）					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者・家族の希望に応じて、通院の支援をしています。また、自宅では包丁を使う機会がなかった利用者も一人ひとり自分の包丁とまな板があり、職員とともに食材を切っています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援の協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られた、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診や通院は、利用者や家族の希望に応じて対応しています。医療機関との連携が密に行われており、利用者の安心にも繋がっています。費用面で心配も懸念されるので、今後も往診の希望や必要性など、利用者や家族と話し合いを密に行われることが望まれます。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化の際や終末期の対応については、利用者・家族に対し意向について確認しています。設備等の問題もあり、現在是对応していない状況です。利用者の長期化・重度化の中で今後さらに、家族や利用者を交えての話し合いが必要になることを意識しています。		

外 部	自 己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	「自分が利用者だったら」を常に念頭に置き、利用者一人ひとりの誇りやプライバシーへの配慮をしています。オムツをできるだけ使用しないケアの取り組みもその1つです。また個人情報保護の規程や雇用契約書に職員の秘密保持を義務付けています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や日中の過ごし方は特に規制していません。利用者の状態が重度化する中で、体調に合わせた個別のケアが必要であることを認識し支援しています。午前中は身体の機能を維持し、転倒などの予防を目的に体操や歌など取り入れた取り組みを行い、入居後機能を維持している利用者がいます。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	男性利用者も各自の包丁やまな板を使い調理へ参加しています。昼食夕食の調理や盛り付け、配膳、片づけを職員と一緒にしています。月に2回の栄養献立会議を実施し、利用者に都度希望を聞き、献立のメニューが決められています。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	2～3日に1回は入浴をしています。利用者の希望にあわせて、毎日入浴している方や入浴を拒否する場合でも、足浴などの部分浴を行い、タイミングを見て入浴を促しています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	毎日午前中に、全員を対象とした体操や歌など、日頃使わない筋肉を使い転倒予防や楽しみの時間になるように取り組んでいます。強制ではありませんが、ほぼ毎日全員が参加しています。また、生活歴から得意なこと、趣味など聞き取り支援しています。書道の得意な利用者は地域のクラブに参加し、作品をリビングの壁に飾っています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物、外食などさまざまな外出記録があります。ホーム周囲の敷地も広く、畑があり戸外で昼食を摂ることもあります。利用者が重度化する中で外出は難しくなりましたが、できるだけホームの玄関先や戸外へ出て外気に触れ四季折々の景色を眺める機会を作っています。ホームの周囲も近隣の畑や田園が広がり、竹やぶや季節の花を見ることができます。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵は日中開錠し、自由に出入りできます。各居室からも庭に出ることが可能です。事務所等への出入りについても自由で、利用者は、挨拶をして入室しています。ドアの開閉時チャイムが鳴り、出入りをキャッチして安全への配慮を行なっています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害マニュアルを作成し、年2回の消防・防災訓練を実施し、消化器の使用方法や避難経路の確認をしています。ホームでも救急の日を防災訓練の日と位置づけ実施しています。管理者は、夜間の対応として地域の協力の必要性を感じています。また、非常用食料品と水の備蓄があります。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士に献立を確認してもらい、栄養のバランスや摂取カロリーに注意を払って、1日1,600kcal 前後で作成しています。食事摂取量や水分摂取量は、一日を通して把握し記録に残しています。午前・午後にティータイムを作り、水分摂取の機会になっています。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂と居間のスペースは、運動などの集団活動の場であり、憩いの場であり多目的スペースとして使用されています。畳のスペースは、利用者の身体機能に合わせて、リクライニング式のソファが置かれ、疲れた時に足を伸ばし、くつろげる場となっています。食堂のテーブルに座ると、庭のフェンスの鉢植えの花や近隣の田園、竹やぶが視界に入り、涼やかな風とともに五感を刺激しています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は、収納スペースがあり各自の衣類や持ち物を整理しています。設置されている木製の電動ベッド以外、全て収納スペースへ整理している利用者もいます。仏壇、馴染みの家具、家族の写真、加湿器、テレビなど、可能な限り自由に持参できます。		